

「農業」をテーマにした
20～30代向けの季刊雑誌

農業が身近になる、 ■ ファーム・コミュニケーションマガジン

Agrizm

[アグリズム]
媒体資料



0号：2月2日発刊(完売)!

創刊号：7月16日発売!!

『Agrizm』(アグリズム)ってナニ?

「アグリズム」が想定する読者

「ビジネス」と「ライフスタイル」
としての農業に関心が高い
20～35歳の
農業者 & 都市生活者

具体的には……

- A: プロとしての自覚と自信をもって農業を営んでいる人
- B: 農業を営んでいるものの、まだ自信がもてない人
- C: 非農家だけど、プロ農家なみに農業に関心のある人
- D: 農業を軸としたライフスタイルに興味のある人

コア読者は……

農家の後継者を中心とした全国各地の
「農業青年クラブ」のクラブ員
およそ**13,000人** (年齢:10代後半～30代前半)

**全国の自営農家の後継者、
約36,000人** (20～30歳/男:2.9万人、女:0.7万人)の
約36%

※農林業センサス2005「主に自営農業に従事した世帯員のうち、ふだん仕事を主とする年齢別世帯員数」を基に試算。



毎年、各都道府県の農業青年が集う全国大会も開催されている。運営スタッフも農業青年自身が務める。

『Agrizm』のコア読者、農家の後継者ってどんな人？

農家の後継者が考えている農業



「農業が仕事って、カッコいい！」と自信を持って言える農業青年は少数派

「実家が農業だなんて、恥ずかしくて初めて会った人には言えない」 (25歳・男・栃木県)

「30歳を過ぎたけど、結婚どころか彼女すらできない。これも仕事が農業だから」 (33歳・男・長野県)

「どこに行っても3K産業扱い。違う仕事がしたいけど実家を継ぐしかなかった」 (27歳・男・茨城県)

ちなみに、カッコいい農家を知らない人は・・・

「農業は大事。でも自分はしたくない」 (34歳・女・東京都)

「農家の担い手にはがんばってもらいたい、だが、娘を嫁には行かせたくない」 (48歳・男・山形県)

「ダッシュ村みたく、すればいいのにい」 (22歳・女・東京都)

だけど、

「カッコいい農業を生きているヤツはいる!」、「シビレル農家は存在する!」

若いからこそ、
みんな本心では・・・

農業って、カッコよくね!?

とみんなから思われたい! 自分自身も思いたい!

だから・・・

「カッコいい」農業者を紹介し、「カッコいい」農業者を育てる媒体「アグリズム」が必要!

※カッコいい ≡ 自立した、稼げる、面白い、楽しい、魅力ある...

(農業青年クラブ役員)

そこで、『Agrizm』はこうしてみます!

「アグリズム」の
コンセプト

「農業が身近になる、 ファーム・コミュニケーションマガジン」

「カッコよくね!?(つまりは「カッコいい!!)」

と言われるような農業に関わる様々な

「考え方」や顧客志向で農業に取り組む

農業青年を紹介・提案し、読者の心に

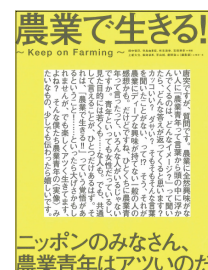
共鳴と刺激を与え、自らの農業センス

を磨く。最後には、「マジ農業してえ!」、「負け

らんねえ!」と感ずることができる雑誌。

コンテンツ

人物ルポ、技術解説、新商品紹介、ビジネス解説、ライフスタイル紹介など、アグリカルチャー全般を取り上げる。



『Agrizm』媒体概要

- 判型** A 4 変形 (タテ270mm×ヨコ210mm) / 中綴じ* / 右見開き
- 編成** [0号] 全36ページ / [創刊号] 76ページ* (表紙・裏表紙含む)
- 刊行** 年4回 ([0号] 2月2日発刊 / [創刊号] 7月16日発売*)
- 価格** [0号] 500円 (税込)、[創刊号] 780円 (税込)*
- 部数** [0号] 1万5000部 (完売) / [創刊号] 3万部*
- 販売*** 農業青年クラブ員: 約1万部、書店、飲食店、農機資材店、
農産物直売所などで2万部販売予定。

※・・・*印の項目は変更になる可能性があります。



広告掲載に関して (創刊記念キャンペーン価格)

中面 (1P) ……50万円 / 表2・表3 (1P) ……各65万円 / 表4 (1P) ……85万円

<申し込み締め切り: 5月末予定>

【お問い合わせ先】 (株)農業技術通信社 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-18-25 康洋ビル9F
TEL: 03-3360-2697 FAX: 03-3360-2698 Eメール: AGRIZM@FARM-BIZ.CO.JP